

〈解答〉

- ① 1 〔例〕 他人への想像力を磨く（10字）
2 ウ
3 オ
4 イ

配点 ① 1、4は各3点、他は各2点 10点満点

〈解説〉

- ①
- 1 設問に指定されている「他人」ということばに注目する。その上で、傍線①の直後の段落にある「食事をいっしょにとるとのことじたいを重視していたのは、きっと、そのことに、他人の見えない心もちに想いをはせるという、想像力のもつとも基本的なはたらきを（見いだしていたから）」という部分や、同じ段落の最後の一文にある「そういうなか（Ⅱ）家族で食事をとり、料理の味を報告しあうという環境の中」で、他人への想像力というのが磨かれる」という部分を使ってまとめる。
- 2 接続語の問題は、前後の文章のつながりを考えること。「味覚は他人と共有しにくい」と「母親は子どもに『どう、おいしい』と尋ねる」との関係を順接ととらえるとよい。
- 3 傍線③の直前に、「こんな」という指示語があるのに注目する。傍線③の直前の段落で、家族がいっしょに食事をすることにより、想像力が磨かれるという内容が述べられているので、「食事Ⅱ日常生活」というつながりから、「平凡で日常的な家庭生活」とある、オを選ぶ。
- 4 本文では「食事をいっしょにする」ことの大切さが述べられている。これが、「想像力が必要とされる場面や状況を具体的に示す」とある、イと合致する。ちなみに、ア「想像力の豊かな人と貧しい人との差が、生活環境の違いによって生じていることを論理的に説明」、ウ「想像力が誤って使われた際の危険性を具体的に挙げ」、エ「昔の人々がもっていた芸術的感受性を育むための特別なプログラム」、オ「想像力の新たな活用の仕方や、活用する上での注意点を挙げる」といった内容は、本文中に述べられていない。